



平成30年度在宅医療支援センター活動報告

表示が小さくなっていますが、年間の件数についてご報告しますので、ご覧ください。

1、地区別懇談会・研修会報告

開催日	曜日	地区別	出席者				地区別懇談会参加状況(アンケートから)	
			研修生	その他(包括・市等)	合計	そのうち医師数	2回目以上	初回
11/15	木	湘南台・長後地区	52	22	74	7	22	23
11/29	木	明治・辻堂地区	47	34	81	7	22	20
12/7	金	湘南大庭・遠藤・御所見地区	55	21	76	7	26	19
12/20	木	片瀬・橋沼地区	58	25	83	7	35	11
1/24	木	善行・六会地区	57	16	73	4	33	21
2/21	木	藤沢・村岡地区	64	19	83	11	41	17
合計			333	137	470	43	179	111

平成30年度 藤沢市・藤沢市医師会在宅医療支援センター共催による研修会の一覧

月日	曜日	タイトル	講師	参加者
1 6/28	木	高度急性期病院と地域との連携	藤沢市民病院 阿南英明 診療部長 藤沢市民病院 向泉 地域医療連携室長	177
2 8/30	木	医療と福祉の連携について	藤沢市福祉健康部長 片山睦彦氏 地域包括ケアシステム推進室 星薫氏 社会福祉協議会 松本美由紀氏 小規模多機能型居宅介護 菅原健介氏	188
3 9/20	木	認知症になっても「よく生きる」ために	かわしま神経内科クリニック ボランティアセンター 亀吉 川崎乃里子医師 鈴木しげ氏	152
4 10/25	木	「デイサービス・ショートステイ中の医療介護連携」シンポジウム	【座長】松本孝道 医師 藤沢本町ファミリークリニック 杉山雅子 氏 ケアセンター 鶴生園 野中 翼 氏 ツクイ・サンフォレスト藤沢長後 武田由起子 氏 ラポール藤沢 羽賀美智子 氏 グリーンライフ湘南 藤原正三 医師 湘南台スマイルクリニック 米 吉子 氏 きちケアプランセンター 齊藤純子 氏 オフティ藤沢 貝原正樹 医師 藤沢市民病院救命救急センター 寺田俊介 氏 介護保険課 齊藤文就 氏 介護保険課	187
5 3/1	金	在宅医療における ACPについて	神奈川県医師会在宅医療担当理事 平塚 内科久保田医院 久保田毅 医師	132
6 3/30	土	自分らしい最期を迎えるために考えておきたいこと	湘南ホスピタル 奥野滋子医師	63

2、相談件数報告

相談件数合計		172
(うち新規)		115
相談先	病院・診療所	19
	地域包括支援センター	40
	訪問看護ステーション	3
	居宅介護事業所	48
	薬局	0
	介護施設	4
	その他(行政など)	58
相談内容 合計		172
相談内容の詳細	訪問医の紹介	35
	協力医の紹介	8
	かかりつけ医紹介	6
	受診の相談	29
	訪問看護について	9
	ケアマネジャーについて	0
	介護サービスについて	0
	栄養・食事に関すること	1
	入院・入所相談	39
	薬局・薬剤に関すること	0
	その他	45
後方支援病院への入院		5
詳細	病状悪化による入院調整	3
	レスパイト入院調整	2

市民講座

テーマ：自分らしい最期を迎えるために考えておきたいこと

日時：3月30日(土) 14:00~16:00

場所：藤沢市役所 5階 会議室

講師：湘南ホスピタル 奥野滋子医師

参加者：63名

アンケート回収57名(回収率90.5%)

・年代別参加者は70代80代の方が多かった

今回の講演会は「非常に良かった」というご意見が多く、講演会を聞いて看取りに対する意識が変化した方が8割を超えていた。一般市民にも分かり易い言葉で事例を交えて講演をして頂き参加者の心にしみいるものであった。お迎え現象、幸せな最期、救急車を呼ばない選択、などそれぞれの方の心に残った言葉があった。

「現在の自分をおまけの人生と置いていたが、現在をしっかりと生きようと思った。人の助けを得る事は恥ずかしいことと置いていたが、必要な時にはお願いしても良いのではと思える気がした。その代わりに、出来るお世話も努めてして行ける自分になりたいと思った。」など、今の自分の生き方を改めて考えた方もおり、ほとんどの方が、今後このような講演会があれば参加したいと答えており、充実した講演会であったと考える。

湘南ゆずクリニック 中尾圭介 医師

大学病院などで勤務医を経て、藤沢で在宅訪問診療に携わるようになり早いもので2年が過ぎようとしています。病院勤務医で培った様々な知識、経験を在宅の分野で発揮できる喜びと、さらに応用するための創意工夫で日々があつという間に過ぎていきます。

在宅の分野では、医療機関の主な役割はこれまでと大きく異なるように感じています。医療機関の本分が病気の治療であることはもちろんなのですが、それ以上に患者さんやご家族、地域の現状を鑑みたうえで、どうしたらより良い生活が送れるか、どうしたら患者さんに必要な社会資源やサービスを提供できるか、ご家族の手間や負担をどうしたら軽減できるか、金銭面はどうかなど、地域や市の自治体などと話し合う事も珍しくありません。病気の治療がゴールではありません。高齢独居や老々介護、認知介護、8050問題などは氷山の一角で、在宅に従事するまでは目に映らなかった現代日本が抱える諸問題があふれています。どうしたら皆がより幸せに生活を送れるか、我々にできる事は何かと毎日知恵を絞る日々です。

少しでも皆様の力になれるように頑張ります。ご相談やご意見などございましたら気軽によろしくお願いたします。通院が難しければご相談だけでも大歓迎です。

